

全国測量技術大会 '03 報告書

企画部 城戸崎 修

東京臨海副都心の東京ビックサイトで6月11日、12日、13日の3日間開催された「全国測量技術大会 '03」に12日、13日の2日間、加藤 明業企委員(別府支所)、倉本克資業企委員(大分支所)の3名にて参加した。

この大会は、(社)日本測量協会、(社)全国測量設計業協会連合会、日本測量機器工業会、(財)日本測量調査技術協会の主催、国土交通省、経済産業省後援、日本土地家屋調査士連合会他協賛で行なわれ、今年で第25回目を迎える。全国からの参加年齢層は幅広く、10代から70、80代の方々が毎年参加している。

内容は、一年間の技術研究等を論文投稿形式にて、審査された当選後の研究論文を短時間に発表を行う。シンポジウムについては、テーマに対し3人乃至4人が報告しその後ディスカス形式にての意見交換であった。尚、プログラムについては、日本土地家屋調査士会発行の会報(4月号)に記載のとおりである。

さて、今回興味深った内容はGIS (Geographical Information System 地理情報システム) 関連の開発がかなり進み、実際に市町村単位で既に稼働しており、統合的 GIS が一般化している。最初から完璧なシステムの構築は避け、基盤図(測地成果2000による高密度基準点網図)重視型の数値地図作製に焦点を絞り込んだ事業展開を行っている。特別に地籍図(地番界)には重みは置いていない事。また、GISにより筆界の確定はなされず道路境界、建物情報等の所在の確認に過ぎない(豊中市 土木下水道部担当者)との意見も出されていた。

今回特に、千葉県市川市建設局都市政策室の実態報告には心躍らされた。統合型GISにおいて最も重要なことは、測地成果2000(世界測地系)のよる統一座標系の基盤図を用いた地図作りを関係者各位が認識し、各事業を実行する際には進んで世界測地系座標により成果品を調整する事。換言すれば登記行政においても100年以上も悩まされてきた公図をこの際に統一座標系において作りかえるチャンス到来、また旧日本測地系により歪まされた地形図を現況地形に則した地図作りに一変できるチャンスが今にある事であると進言した。

私ども公共嘱託登記土地家屋調査士協会においても、決して無関係ではなく官公署からの依頼を受けて行なう調査測量については進んでこの基盤図体制に寄与していかなければならない団体であり、むしろ法務局との連携により進んで事業展開に取り組み、先ずは将来、地籍調査事業にも用いることの出来る(国土調査法第19条第5項指定)筆界調査参照点(仮称)設置に邁進する時期であると感じ入った。

最後に、幸いにもこの大分協会は5台のGPSを保有し、また技術者も多数各地に配属されていることにより体制は整っている。積極的に事業展開を行ない現状の啓蒙と実践に取り組んで頂きたい。